

鳥取市議会予算審査特別委員会総務企画分科会会議録

会議年月日	令和7年3月11日（火曜日）		
開 会	午前10時2分	閉 会	午前11時34分
場 所	市役所本庁舎7階 第1委員会室		
出席分科員 (8名)	分科会長 吉野 恭介 副分科会長 伊藤 幾子 分科員 坂根 政代 雲坂 衛 米村 京子 浅野 博文 星見 健蔵 上杉 栄一		
欠席分科員	なし		
分科員外議員	加嶋 辰史		
事務局職員	議事係長 谷島 孝子	調査係主事	小林 舞実
出席説明員	<p>【企画推進部】</p> <p>企画推進部長 塩谷 範夫 政策企画課長 上田 貴洋 政策企画課課長補佐 酒本 晶恵 政策企画課地方創生推進室長 西田 茂樹 政策企画課地方創生推進室室長補佐 遠藤 幸二 秘書課長 中川 直人 秘書課広報室長 植田 孝二 文化交流課長 中村 和範 文化交流課課長補佐 城市 索 国際交流プラザ所長 平井 圭介 次長兼デジタル戦略課長 山根 寿彦 デジタル戦略課参事 松田 仁史 デジタル戦略課課長補佐 上田 芳郎</p> <p>【監査委員事務局】</p> <p>事務局 局長 富山 茂 事務局次長 有元 薫治 局長補佐 金岡 正樹</p> <p>【選挙管理委員会事務局】</p> <p>事務局 局長 有本 公博 事務局次長 田淵 康修</p> <p>【出納室】</p> <p>会計管理者兼出納室長 横尾 賢二 出納室室長補佐 山内 倫代</p> <p>【市議会事務局】</p> <p>事務局 局長 保木本英明 事務局次長 一村 泰志 局長補佐 毛利 元</p>		
傍 聴 者	なし		
会議に付した事件	別紙のとおり		

予算審査特別委員会総務企画分科会に切替え 午前10時2分 開会

【企画推進部】

◆吉野恭介分科会長 それでは、総務企画委員会をこれで終了し、予算審査特別委員会総務企画分科会を開催いたします。

これより、質疑を行ってまいります。本日の分科会について、何点か確認をいたします。討論、採決を行うことができません。また、各部の議案審査終了後、分科会長報告に盛り込むべき事項の協議を行い、最後に、全体の取りまとめ、委員長報告に盛り込むべき事項の協議を行います。分科会長報告は、審査時における質疑、答弁、意見を報告するものですので、発言のなかったものは報告することができません。分科会長報告は、この分科会で確認をいたします。以上、皆様の御協力をお願いいたします。

議案第11号令和7年度鳥取市一般会計予算のうち所管に属する部分（質疑）

◆吉野恭介分科会長 それでは、質疑に入ります。議案第11号令和7年度鳥取市一般会計予算のうち、本委員会の所管に属する部分の質疑を行います。質疑のある方は、挙手をお願いします。上杉委員。

◆上杉栄一分科員 歳入ですけれども、歳入の2ページの、総務費補助金の中での政策企画課ですけれども、これについて、新しい地方経済・生活環境創生交付金ということで、第2世代交付金、いわゆる、地方創生に係る新しい交付金ということで、これ、2億6,600万円入ってるわけですけれども、説明では、各課に、これをいろんな事業の中でという話は聞いてるんですけども、石破総理が誕生して、この交付金、昨年11月に、1,000億円か、国の、当初で1,000億円、2,000億円、結果としては3,000億円ぐらいの予算が、国としてはついてるわけですし、そうすると、それを全国の自治体、約1,700自治体で割ると、大体2億からそんなもんなんですけれども、ただ、これは満遍なく配る話でなくして、それぞれの地方が知恵を出して、うちは、こういったことをやりたいということで提案してもらえば、それは、国のほうで、もちろん、それこそ採択・不採択、もちろんあるんだろうけれども、国のほうとしては、鳥取県等々については、お膝元っていうこともあるのかもしれないけど、どんどん出してくださいよという話は聞いてるんですけども、今これ、2億6,000万という話です。

まだ、新しい国の、何ていうの、新年度予算はまだ通ってないわけで、昨年11月の臨時国会での1,000億っていうような形のものが、ここに入ってるのかなっていうふうに思うんですけども、今後、この地方創生の新たな取組について、今年度、あるいは、要するに、補正等々もかかる話というふうに思ってますけれども、新たなその事業であったりというものが、その枠の中で、国にその申請といいますかね、そういった予定があるのか、そういったことができるのか、そのことについて、ちょっとお伺いしたいんですけれども。

◆吉野恭介分科会長 西田室長。

○西田茂樹政策企画課地方創生推進室長 地方創生推進室、西田でございます。御質問いただきました第2世代交付金につきましては、最大限活用するというところで、今年度3事業活用して

おりまして、来年度、令和7年度につきましては、そのうちの2事業ですね、SDGs未来都市の関連事業、それから、鳥の劇場が活用した、そういった事業ですね、これは、引き続き来年度も実施していこうというふうに考えております。新たに4事業ですね、今、計画をいたしまして、国のほうに申請をさせていただいてるところでございます。

その事業につきまして、主に、簡単に、それぞれの事業を御説明させていただきますと、インバウンド誘致で切り拓く麒麟のまち圏域の未来創造事業ということで、日本遺産を活用して、麒麟のまち圏域を活性化、それから、観光振興をしていくような、そういう事業を1つ上げさせていただいております。それぞれの事業が、先ほど上杉委員さんもおっしゃられたように、各課で、それぞれ歳出予算を計上させていただいておりますので、それぞれの細かい事業については御説明いたしませんけど、そういった大きなパッケージングをして、1つの事業というのをつくらせていただいております。また、デジタル人材の育成・活用プログラム実践事業ということで、地元のデジタル人材の育成でありますとか、県外のフルリモート人材、そういった方の誘致とか、そういう関係する事業、これもパッケージングをして1つの事業とさせていただいておりますし、また、農業振興のために、担い手の育成だとか販路拡大をするような、そういう事業ですね、これも農業、農林水産業の関連ですね、メインとなりますのは、新たな農林水産業の振興プランを策定をいたしまして、それに基づいて、今、事業実施していくというものでございます。あと、4つ目が、まちなかビジネス・コミュニティの拠点整備ということで、中心市街地の遊休不動産を活用した、そういう、まちなかのコミュニティの拠点を整備するという、この4つの事業を、今提案をさせていただいております。それぞれですね、新たに事業を各課で計画をしていただきまして、それをまとめて、4つの実施事業として計画をさせていただいてるところでございます。これにつきましては、今年度末には、採択・不採択の結論が出るというところで、新たにはこういった4つの事業を、検討をさせていただいてるところでございます。以上です。

◆吉野恭介分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 ちなみに、予算どれぐらい申請してますか。

◆吉野恭介分科会長 西田室長。

○西田茂樹政策企画課地方創生推進室長 地方創生推進室、西田でございます。すみません。この事業につきましては、交付金の対象事業の2分の1が交付金でございますので、今、歳入予算を計上させていただいてます、この2億6,696万円の、これの2倍が全体の事業費となっております。

◆吉野恭介分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 この2世代交付金については、最大10億かな、15億かな、何かその最大限の活用で、1自治体何ぼっていうのが何かあるような話を聞いたというふうに思っただけでも、やみくもに申請する話ではないけれども、しっかり、こういった制度があるということでありまして、今、4事業ですけれども、もし、新たなその、そういった、これに向かうような事業があれば、積極的にこれは、やはり国のほうに申請していただければというふうに思っております。以上です。

◆吉野恭介分科会長 そのほか質疑ありますか。星見委員。

◆星見健蔵分科員 事業別概要書の63ページの上段の麒麟のまち圏域学生・若手社会人交流事業費でございます。この間、総括質疑でも、他の議員さんが質疑をされたことでありますが、もう少しお聞きをしてみたいというふうに思います。予算額が42万3,000円ということですが、この予算のですね、内訳について、まずお聞きをしてみたいと思います。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。予算42万3,000円の内訳でございますが、事業の実施方法としてはですね、こういう学生ですとか、若手社会人を集めた催しといいますか、そういったことに、経験やノウハウのある事業者にご協力いただきたいと思っております。業務委託を考えております。見積りのほうを少しお願いをしております、そういった内容でやるのかというプログラムを考えていただいたりとか、宣伝を行う必要がありますし、それから、場所をちょっとお借りするというようなこともございますので、そういった経費一式ということでございます。

◆吉野恭介分科会長 星見委員。

◆星見健蔵分科員 業務委託ということ、ということは、ほとんどが委託料になるということですよ。それで、考え方について、もう少しお聞きしたいと思います。参加者をどう募るかということ、私はとっても、参加者集めるの大変だなと思っておったところが、この間の説明では、圏域自治体の協力をいただくという回答でございました。それで、この目的としましては、麒麟のまち圏域の若者定住と地域活性化を促進するというのが目的の1つであります。それで、私は、やはりこの近隣の東部圏域、麒麟のまち連携中枢都市圏域の連携ということが、いろんな様々な面で、これからは本当に重要になってくる分野だというふうに思っております。それでですね、どこの自治体も抱えておる人口減少ですね。この、やはり若者の転出超過、これに歯止めをかけるということも、非常に大きな課題となっております。そういったことから、この事業の目的も、それなりに、そうだなというふうに思うわけですが、その人口減少、それから、圏域の連携について、もう少し考え方をお聞きをしてみたいと思います。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。人口の減少、それから、それに対する連携して取り組むという考え方ということでございました。圏域で、1市6町、毎年、年3回、首長が集まっていたら、そのうち1回は、議長さんにも出ていただくサミットというようなことで、こう意見交換といいますか、協議を行っております。そこでの、やはり最大のテーマといたしますか、各首長さんからお話が出ますが、やはり議員が今おっしゃられた、人口減少にどう立ち向かうかと、それから、出生数落ち続けてる、若い人が出ていくと、そういった課題を、皆さんおっしゃられます。その課題認識をですね、共有で持ちながら、先般、圏域の総合戦略を策定させていただきましたけども、やはり皆さん、気持ちといいますか、おっしゃられるのが、ここで、少し取組のレベルといたしますか、今までにないような発想もちょっと取り入れながらやっついていかないと、なかなか同じようなことをしていても、これから解決難しいんじゃないかなと。それは、具体的にまだ、何がというのはないんですけども、そういったお考え

を表明された首長さんもおられまして、そういったことをベースにしなが、現場の関係課ですとか、私どもの企画部も、そういったところで、1市6町の現場レベルでも、首長の御意見を踏まえながら、どういったことができるのかということ、連携して考えていくのかなというふうに考えております。

◆吉野恭介分科会長 星見委員。

◆星見健蔵分科員 大体分かりました。それで、本市での開催を考えておられるということでありました。そういった場合にですね、特に、学生さんなんかは、参加するのに、経費がかかるということになれば、なかなか参加しづらいというふうに思うわけですね。交通費であったり、参加費について、どのように考えておられるのかお尋ねします。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。ただいま、議員から御意見いただきました、学生ですので、そんなに経費がかかると、なかなか参加がしていただけないんじゃないかと。事務局のほうも、同じ思いを持っておりまして、また、この基になります、こう企画を考えてくれたのが、鳥取市の若手職員ということで、就職してそんなに年数がたっていない、まだ学生の気持ちに近い職員たちが考えてくれたものでございます。その際もですね、やはり、そこは気にしておりまして、ということも踏まえてですね、現在、この参加経費、どういう設定にしようかと。ゼロ円というのもございますし、僅かでも、少しお菓子代とか、何か頂戴するというのもございますので、今、御意見いただいたことも踏まえて、継続して検討をしてみたいなというふうに考えます。

◆吉野恭介分科会長 星見委員。

◆星見健蔵分科員 鳥取市内に住んでおられる方が、その1キロ、2キロの範囲で参加するというのであれば、さほど交通費等も考える必要はないかなと思ったりもするところですけども、遠方から集まって参加するということがなれば、今々のガソリン代一つ考えてもですね、かなり値上がりしがしとるような状況ですので、その辺は考えていただきたい。

それから、参加費用は低廉で抑えるという、この間の回答をお聞きしたわけですが、参加費は取るんだけど、出席して参加するために日当であるとかね、それとか費用弁償する、費用弁償ですね、そういったことを考えられる中に、昼食費は、その中からお支払いをいただくとか、負担をいただくとか、そういう形でなければ、なかなか、それは、学生に参加せえ言っても難しいんじゃないかなというふうに思うところでありましてですね、やはり、参加される方の負担にならないような、やはり中身、内容にしていきたいなというふうに思います。

それから、こういった20人程度の募るということで、年2回程度開催するということが予定されておりますが、これは、同一のメンバーで、年2回開催されるのか、全く別のメンバーで開催されるのか、その辺についてお聞かせください。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。年2回ということございまして、基本は、その2回とも募集をしてみるということを考えております。ただ、雰囲気よかったから、もう一回出てみたいというようなこともあると思いますので、そこは、一度出たらもう駄目とか、

あんまり縛りを入れなくて、なるべく、何というんでしょう、緩くですね、やってみたいなど。もともとの企画が、学生があまりその形式張ったこう雰囲気ではなくて、こう気軽に参加しやすいというところが根本の企画でございましたので、それを、どう工夫してやっていこうかなというところで、今、知恵を絞ってるところでございます。

◆吉野恭介分科会長 星見委員。

◆星見健蔵分科員 2回でも3回でも出てみたいというようなですね、ぜひとも会にさせていただきたいと思います。以上です。

◆吉野恭介分科会長 坂根委員。

◆坂根政代分科員 関連です。まず、これ、どうでも麒麟のまち圏域じゃないと駄目なんですかというのが1つ。

もう一つは、人口減少若者プロジェクトチームからの提言ということで、この事業が創生されようとしてると、こういうことなんです、このプロジェクトチームは、この事業にどう関わるんでしょうか、ここを教えてください。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。まず、麒麟のまち圏域じゃないと駄目なのかということでございますが、基本は、鳥取市の事業ですので、鳥取市だと思っております。その中で、県全部なのか、日本中なのかということもございますけども、こういう地方創生に連携して取り組んでいると、一致協力し合っているという自治体はどこかと、まず考えますと、この麒麟のまち圏域だということで、麒麟のまち圏域の1市6町でも話し合いまして、一緒にやろうということで、麒麟のまち圏域にさせていただいてるところでございます。

それから、2つ目、チームの関わりでございますが、まず、若手職員のチームの使命としましては、こういうことを研究して、提言をしまして、一旦そこで役割とすれば終わられます。ただ、ちょっと事務局としまして、いろいろ考えておりますのが、学生と社会人との交流事業、この企画して準備して、実行する過程というのが、すごくこう、若い職員の経験を積む機会でもなるんじゃないかなということも思っております、少しちょっと、これはまだ企画段階ですけども、例えばその若手のプロジェクトチームもですけども、若い職員の方に、何かこう運営にですね、ちょっと携わっていただくとか、そういったことができないかなというのも、ちょっと考えてるところでございます。

◆吉野恭介分科会長 坂根委員。

◆坂根政代分科員 回答ありがとうございます。やはり、どう言ったらいいかな、自分の住むまちのことを知らないのに、ほかのことを知ろうとするというのは、なかなか難しい面があるなど、一遍にこう、広域になるというところでしょうか。まず、やはり、鳥取市っていうところが、どういうまちで、今、何に困っているのか、そして、また、じゃあ、鳥取市に住んでいる若者は、どんなふうに関心を持って今、市のことを思っているのかとかね、何かこう人口減少というところという、まさにそこを、まず知ってほしいなという思いがあって、一遍に広げる必要があったんだろうかという、この意図です。そういう意味でいうと、鳥取市を中心にしたいという意味もあるけれど、どうぞ来れるところは来てくださると、多分こういう形なのかなということで理解し

ましたが、できるだけ、やはり鳥取市のことを、やっぱり考える会ということ念頭に置いてほしいなということで、1点目は要望しておきます。

2点目は、私は、やはり、今、課長言われたように、ただ単に、提案したからスキルが上がるわけではなくって、やはり様々な人との関わりであるとか、この事業を遂行して成功したという体験が、私は職員の質を高めていくものになると思ってるんです。ですから、せっかく提案して、自分たちが実行して実現できたという、こういう会を、やはりさせてほしいなというふうに思っています。という意味でいうと、何で業務委託なんだろうというところが出てくるわけです。もう一度、ここのところの、やはり基本というところを考えていただきたいというのが、これも要望になるかもしれませんが、そこを申し上げておきます。

もう一つは、例えば、若者創生会議とかもありますよね。そういったところと、この事業が、どう違って、どう関連させていくのか、これ3つ目の質問です。よろしくお願いします。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。若者会議のメンバーも、もちろん学生が主体ですので、この催しのことは、また年度が替わってからですけども、周知して、もし、出てみたいなと思ってもらえるようであれば、出ていただいたというふうに思いますし、あと、もともとのこの企画の話合いであったものの中に、例えば、意欲的に、いろんな市とか県が設定する集まりに出ていただいている若者もたくさんおられるんですけども、それは、すごく、ごく一部じゃないかと。その他の大勢の若い人にですね、何かこう、こういう場に出ていただく取組というのが重要じゃないかなという、そういう課題認識といいますか、そこから企画が出てきたような経緯もございまして、できれば、今、あまりこう、県でとか市の、そういう会にも出ておられない方にも多く参加いただけないかなと。そのためには、どういうアプローチの仕方がいいのかというようなことを、今知恵を巡らせているところでございます。

◆吉野恭介分科会長 坂根委員。

◆坂根政代分科員 ありがとうございます。これからのアプローチの仕方、また、もう一つは、ちょっとやってみんと分からんというところもあるかもしれませんが、やはり様々、似たようなね、やっぱりこの事業があるので、やってみて、その効果検証をしていただいて、新たな、また次の年度は、こんなふうにしようねっていうようなことの施策の検討をお願いしたいと思います。以上です。

◆吉野恭介分科会長 御意見ということで。上杉委員。

◆上杉栄一分科員 関連です。今、意見があったんですけども、この交流事業について、これ読む限りね、何を指してるのかちょっとよく分からないんですわ、これは。ここに書いてあるように、内容としては、ファシリテーターがサポートしながら、学生と若手社会人が食事や体験をしながら、自由に交流するという会、これも、結果としては、これ年2回という格好ですね。これ、何を指してるのかっていうのが、全く、これを読む限りは見えてこない。

61 ページに、若者創生会議、若者による地方創生政策推進事業費っていうのがありますね。これは、令和4年度から、ずっとこうして、学生、大学・専門学生等々で、これ年間に、やっぱり20回程度のそういった会議を催して、市のほうに対して提言をしていくという、これ1つの

目的を持った会議なんですわね。恐らく、ここに参加している学生も、この新しい事業に参加する人もあるかもしれんけれども、そういったその、若者創生会議等々については、かなりの頻度で会を催して、市のほうに提言をして、それを、政策実現をしていくということで、これは、後でちょっと聞きますけど、政策実現したのがあるのかどうなのか、具体的に、それを教えてください。

それから、さっき言った、その新たな事業について、その目指すところが何なのかっていうのが、私、よく見えないんだけど、もう一度、その辺りちょっと説明してやってください。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田でございます。目指すもの、明確な目的が少し分かりづらいなというところがございますけども、目指すところは、学生を対象にしていますので、今の大学生、鳥取大学、それから鳥取環境大学もですね、就職の際に、県外に出られてる方が圧倒的に多いというところがございます。この企画の根底のところ、なぜこういうその集いをしたかと、集いを企画されたかという、若手職員、それから、それ以外のちょっと知見でもあるんですけども、学生時代の、なるべく早い段階で、地元の、例えば働いておられる方ですとか、企業もですけども、それから、地域で、何かいろんなこと取り組まれている方、そういった方とつながりを持っていると、比較的、地元、県外転出しないで残られる傾向があるんじゃないかと、そういうお話からございました。そのためには、まず、自分のロールモデルといいますか、鳥取で働くっていうのはどういうことなのかということ、知っていただきたい。または、この社会人のほうの参加の分になるんですけども、この社会人のほうについては、まず、恐らく、その想定してるのがですね、自分の会社の、例えばこう就職活動といいますか、うちに来ると、すごく充実した職場だよとかですね、そういったことを、自然な感じで知っていただくと。あまりその本心を前面に出し過ぎると、学生がちょっと少し引いてしまうんじゃないかなというのもございますので、その力加減をですね、ちょっと、よく企画段階で検討して、社会人のほうについては、そういう職場のPRといいますか、魅力を発信していただいて、あと、その働いてる日常的な話をしていただくことで、鳥取で働くイメージをちょっと学生に伝えていただくと。学生は、そういう警戒心なくですね、お話を聞かれることで、自然に、鳥取で働くイメージを持っていただくと、そういったことを取り組むことで、1つの今までやっていないこの分野の事業ということで、転出抑制に寄与しないかなと。

2回ですけども、我々も、もう少しやってみたい気持ちもあったんですけども、少し、やはり様子も分からないので、まず、ちょっと実験的に2回ほどやってみようかと。人数も、目が行き届く10人までということで、今年、その下地づくりをやってみようと、それを踏まえて、次年度以降の展開を考えてみようかと、こういう企画でございます。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。政策実現の内容についての答弁をお願いします。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。近年、実現した若者会議のほうの政策でございますが、まず、現在も予算要求させていただいています、麒麟のまち魅力発見事業、これ1つの成果でございます、令和2年度に、若者会議が、就職や定住の増加には、学生時代からの地元事業者とのつながりが有効であるということですので、地元の魅力や観光地を知って楽

しんだ人が、在住する傾向にあるんじゃないかと、そういった提言をいただきまして、それに対する打ち返しとして、事業化したというものがございます。

それから、次にですね、令和4年度でございますが、若者会議、学生とのコラボによるSNSで情報発信をして、それで、学生が地元を考えるきっかけにしてもらったらどうだというような提言がございまして、これにつきましては、地域振興課とうちで協議しまして、この間、地域振興課で、高校生対象のインフルエンサーグランプリというものを企画しまして、実施しましたけども、それが1つの形になっております。

あと、大体1年か2年遅れで実現してるんですけども、5年度に、同じく若者会議が、高校卒業後も、地元と関わりを続けてもらうためのきっかけづくりに、高校生を対象にしたワークショップを開いて、まちづくりとか、まちの課題、知ってもらったらどうだというようなことがございまして、それで、令和6年度、昨年10月ですけど、市役所の6階で、東部圏域の高校生、市内の高校の学生さん募りまして、高校生が考える輝く未来のワークショップと題して実施、若者会議に、ちょっと市も協力しまして、実現させていただいたというものがございます。

◆吉野恭介分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 ありがとうございます。分かりました。次に、この若者創生会議については、かなりの、いわゆる会議の中で、けんけんがくがくみたいな形の中で、提言をして、それを政策を実現したという、言ってみれば、目的を持ってこの会議をやっておられるし、それから、年に20回ぐらいやっておられるわけなんで、分科会みたいな格好でやっとなか分かりませんが、いずれにしてもね、やっぱり目的に沿った事業、それは、具体的に言うと、事業が申請した、提言した事業が、2年後ぐらいにはそれが実現してるという、1つの実績があるわけなんですわね。この麒麟のまち圏域の分については、ある面、よく言ってるけども、婚活じゃないんだけど、あわよくばというような、そういった期待を持っての話のような、だから、非常にファジーでね、具体的なその目的が何なのかっていうのが、私に分らんのが、そのことなんです。もし、そういった形で、鳥取市に残ってもらうような形であるならば、年に2回、1回1時間、2時間話をして、それで、若い学生が、じゃあ、鳥取に残ろうかという話には、まず無理だというふうに思っております。だから、もう一度この辺りの内容については、しっかり精査していく必要があるのかなということだけは、申し上げておきます。以上です。

◆吉野恭介分科会長 伊藤副委員長。

◆伊藤幾子副分科会長 この麒麟のまち圏域学生・若手社会人交流事業費なんですけど、まず、若手職員のプロジェクトチームから出てきたってことで、それで、私はそこにポイントを置いてまして、それで、若手職員なので、本当で、市役所の職員になって、まだ数年っていう短い職員が、手挙げ方式で、我こそはということで集まってきたと。市長もそうやって言われてたかな。もう自由闊達に、縦の、枠を超えて、課とかそんな部署の枠を超えて、自由に感じてることを言ってもらって、そこで提案をっていうようなことでスタートをした、そこで、幾つかが出てきて、その1つなんですけど、結局、数年しかたってない職員が考えたことなので、100点満点には絶対いかないだろうと。それを、私は、本当にその提案した若手の職員が、やっぱり、坂根委員も言われたけど、関わる必要があると、自分の提案したことが、どこが足りな

かったのか、どうしていけばよりよくなるのか、そういったことを、中に入って、その進めていく側で、やっていくことが、政策立案の能力を高めていくことになるわけですね。これ、本当に、実際に提案したことをやってみてどうだったかっていう、本当にそこまでやるってことが責任を持つってということで、そういうことが、市役所で何年も働いていくと、やっぱりそこが求められるじゃないですか、最後のところがね。だから、それを、まだ職員になって数年の職員でも、その数年のレベルでというか、その時点で、やっぱりそこまで、やっていくことが必要なんじゃないかなっていうふうには思ってるんですよ。そのファシリテーターは、経験者から人選するってということで、それは、よその人頼むんですけど、その若い職員さんが、あっ、こういうふうにしていけば、意見が引き出せるんだとかね、こういうふうに進めていけばいいんだとか、何か勉強する場でもあると思うんですよ。だから、こう誰かにやってもらうならやってもらうで、でも、そこから、何を学んでいくのかっていうことが、次につながっていくと思いますので、だから、提案しただけで終わりじゃなくて、せっかく提案したんだから、さらに何かこう、つかんでいく機会にやっぱりして行ってほしいし、私も、年2回、2回話したぐらいで、鳥取に住もうなんて思うっていうのは、なかなか厳しいし、いいことばかり言われたら、逆にうそに聞こえるし、やっぱり地方に住むって、相当しんどい話ですからね。マイナスイメージを絶対持ってるから、そのマイナスを、いかにこう少なくして、プラスのほうに持っていかっていうようなことを、2回じゃ、なかなか厳しいだろうなと。ただ、同じような世代で、幅はあってもね、社会人・学生ってということで、こういう機会がないと知り合えない人たちと一緒に、いろんな交流をするっていうのは、大事なことだとは思いますが、ただ、こう本当に、今回、この42万3,000円使ってこうやる中で、本当に、何かこう成果だったり課題だったり、こうね、もっとうまいていきたいみたいな、そういったことを、たくさんこうね、出し合えるというか、提案した若手職員がね、やっぱりそういったものにしていかないと、本来目的としているところに、近づいていかないんじゃないかなと思ってますので、まあ、まあやってみみやみたいいな感じ、若手職員に、うん。やっぱりそう、そういうのも大事なのかなというふうに、ちょっと私は思ってます。以上です。

◆吉野恭介分科会長 質疑をしますので委員長を替わってください。

◆伊藤幾子副分科会長 はい。それではしばらく替わります。吉野委員。

◆吉野恭介分科会長 自分も、この事業についてなんですけど、自分の地域のほうで、青少年育成の活動とかやってるんですけど、そういった中で、大学生に、こういった企画をやるから、一緒に参画してみんかっていうような投げかけをしたら喜んで来られるので、NPO法人のつくった、立ち上げられとる人が、ワッフルを自分とこで作ってるから、それを一緒に販売とかしてっていうような。事業に、地域の事業にのっかってくるんですね。そうしたやり方を、行政が何でもリードしてやらないけんちゅうわけではないと思うので、地域で、そういう活動してる場所には、応援をしていくっていうような考え方があっていいのではないかなと思ってんですけど、そんな考えは、お持ちですか。

◆伊藤幾子副分科会長 上田政策企画課長。

○上田貴洋政策企画課長 上田でございます。地域での活動、取組を応援していくことも大事じ

やないかと、そのとおりだと思います。各地域で、地元の学生に、例えば公民館とかですね、町内会もあるかもしれませんけども、していかれて、なじんでいただいて、鳥取いいとこだなとか、地域に加わるのも結構いい、自分にとってもいい経験じゃないかなと、そういったことを増やしていくというのは、とても大事なことだと思いますので、協働推進課ですとか、地域振興課にも関わりのある分野かと思しますので、御意見も踏まえながら、今までの取組も、もっと充実できないか相談してみたいと思います。

◆伊藤幾子副分科会長 吉野委員。

◆吉野恭介分科会長 ありがとうございます。ぜひ、よろしくお願いします。それでは、元に戻りましょう。

◆伊藤幾子副分科会長 はい。委員長に戻します。

◆吉野恭介分科会長 執行部の方をお願いを申し上げます。今、出ております若手職員の提案でってような事業がありましたら、この質疑応答の冒頭で、この事業は、若手職員からの事業なんだということを一言加えていただいて、質疑応答に臨んでいただければと思います。よろしくお願いします。

それでは質疑を再開します。伊藤副委員長。

◆伊藤幾子副分科会長 先ほどの麒麟のまち圏域の学生のこれの分なんですけど、これ、場所が、中心市街地の民間施設っていうふうになってまして、それで、どこから学生さんや社会人が来るか分からない。社会人は、車を持っておられるから、どこでも行けると思うんですけど、学生は、下手したら、JRかバスで来る人もいるかもしれないので、そういうバスの時間だとか、JRの時間だとか、あと帰り、帰りが本当大変ですから、そういったこともちょっと配慮してね、そういう心配ありませんよみたいなような設定だとか、ちょっとその辺も、配慮をさせていただけたらなと思います、お知らせのときとか。以上です。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 時間帯、とにかく電車がなく、汽車がなくなったり、バスがなくなると帰れませんので、今もですね、日中がいいのか、夕方のほうが盛り上がるのかとかということも、いろいろ考え、思案中でございますので、今の御意見も踏まえながら、企画してみたいと思います。

◆吉野恭介分科会長 米村委員。

◆米村京子分科員 すみません。関連してですけど、学生さんたち、確かに時間、車のない人います。それで、よく、うちなんか集まるんですよ、学生さんたちが。そしたら、帰ってみたら、もう時間がないから帰りましたって、そしてまた、次の日を決めて帰られるという。そんなに心配しなくていいですよ。彼らは彼らなりのサイクルでいきますから。だから、行政のほうが、もうどうのこうのっていうことはないと思います。終わります。

◆吉野恭介分科会長 御意見ということで。そのほか質疑ありますか。雲坂委員。

◆雲坂 衛分科員 同じく事業別概要の63ページ下段です。まず、上の事業別概要もそうですけれども、日頃、御努力いただいている関係者の皆さんには、敬意と感謝を申し上げたいと思います。

今回の環境大学運営費交付金、複雑で、施設に関してですけれども、いろいろ聞いて、ああ、分かりやすかったなと思いました。今回は、運営費交付金ですね、そこについて、2年前の予算審査のこの委員会で、分科会の報告にも載っていて、そのときには、地元の出身者の入学率だったり、地元企業への就職率を高めるように、この委員会でも求めて、先ほどの取組につながられてるんで、大変ありがたいなと思ってるところであります。

もう一つ違う観点からですね、どうしても私、長期的に見て、経営難であったときの話、思いがありますので、まず最初に、志願者数の推移、3年分お聞かせいただけませんか。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。調べてみますので、少しお時間頂いて、よろしいでしょうか。

◆吉野恭介分科会長 雲坂委員。

◆雲坂 衛分科員 時間がかかるようだったら、資料提供でもあれですけれども、次に、その具体的な数字ではなくても、この全国から優秀な学生を集めて、その学生が、先ほどの事業別概要の上でもそうですけれども、この下でもそうですけれども、フィールドワークを通じて、より愛着をですね、さっきは表面的なことを言ってもという御発言もありましたし、より深くするためには、このフィールドワークの研究費とかですね、そういったところにも工夫いただいて、したほうがいいのかと思います。全国から優秀な学生を集めるためにも、この志願者数の推移のトレンドを、どのように分析されていますか。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。先ほど議員からも言っていただきました、志願者数、後日、資料提供させていただいてもよろしいでしょうかね。それでも、もし御了解いただけるようでしたら。

◆吉野恭介分科会長 雲坂委員。

◆雲坂 衛分科員 意見を言うときに、それを材料にしようかなと思っているので。もし、間に合うようだったら、でも、今、取りに行かれたので。

○上田貴洋政策企画課長 じゃあ、ちょっと、少しお時間頂いて、調べてみます。

◆雲坂 衛分科員 間に合うようだったらお願いしたいですし、間に合わなければ、資料提供でもっていうことを言いましたので。

○上田貴洋政策企画課長 はい、分かりました。

◆雲坂 衛分科員 今お聞きしたのは、具体的な数字が分からなくても、その志願者数のトレンドの分析をどのようにしてるのか。また、次にもちょっと用意してまして、特にしてないっていうことでしたら、してないとおっしゃっていただいて。もう少し具体、言うと、上昇傾向なのか、伸び悩んでいるのか、減少傾向なのか。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田でございます。ちょっと具体的な数字は、今手元にないので、調査中でございますが、全体のトレンドとしましては、志願者数は減少傾向、少し減少傾向にあるんじゃないかと思っております。背景としましては、関西圏ですとか、大手の

私大が、学生の、こう何でしょう、獲得に物すごく力を入れておられて、環境大学のほうでも、隔年現象で、志願者数がこう増えたり減ったりを繰り返したりするんですけども、中長期でこう見ていくときに、少しずつ、やっぱり下がってきているんじゃないかというようなふうに見立てをされております。

◆吉野恭介分科会長 雲坂委員。

◆雲坂 衛分科員 その減少傾向の中ですね、広報費の推移はどうなってますでしょうか。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田でございます。広報費となりますと、大学側の予算の内容だと思しますので、大学側に調査してみないと、数字を持ち合わせておりません。

◆吉野恭介分科会長 雲坂委員。

◆雲坂 衛分科員 失礼しました。ここからは、意見になります。今、環境というイメージがですね、何年か前、設立当初と比べて、大分変質してきていると私は感じておりました、先ほどの全国の私学の競争が激化する中、減少トレンドになっているんじゃないかと分析もいただきました。ぜひ、そこは、建学の理念ですね、大学をつくられたときの建学の理念に基づいて、しっかり経営をいただきたいというのが1つと、2年前の予算審査のときの分科会の報告もありますけれども、やはり、この5億、6億という大きなお金をですね、国からもらっていると。公立鳥取環境大学は、地域社会や地域経済の健全な発展に貢献するという役割もあり、その役割を果たすために、安定的・継続的な運営の支援として、国からの交付税措置が、毎年、数億円規模で支出されていると。先ほど、30、交流事業にもありましたけれども、大学のその中期目標として掲げられてるような、その地元出身の入学生とかですね、就職率も、これ課題で、ぜひ全体としても、大学だけじゃなしに、全体としてやられてるの大変評価しますし、先ほど少し言いましたけれども、より愛着を高める、湧かすためにもですね、フィールドワーク研究、ぜひこういったところに、大学と県と協力していただいて、予算を増加をしていくと、そういった取組も要望したいですし、執行部におかれましては、先ほど志願者数が減少トレンドだということで、志願者数の増加策、また、広報費の増加ですね、これは、大学とも協議をしながら、県とも協議しながら増加をして、より魅力の発信をして、優秀な学生を取り込んで、若者の定着につなげていくようなものと、相互作用を図っていただきたいと、地域社会や地域経済の担い手確保につなげていただくことを求めて、意見とします。

◆吉野恭介分科会長 上田課長。

○上田貴洋政策企画課長 政策企画課、上田です。志願者数、直近、数年の分を報告させていただきます。令和2年度から申し上げます。環境学部、経営学部、2学部でございますので、合計で報告させていただきます。令和2年度が1,360人、令和3年度が1,344人、令和4年度が1,263人、それから、令和5年度が1,296人、そして、令和6年度が878人、ということになっております。

◆吉野恭介分科会長 雲坂委員。

◆雲坂 衛分科員 意見を言った後で、ありがとうございます。今のトレンド、私もびっくりしまして、事前調べしてなくてですね。令和6年度が878人と大幅減少をしているんだなと。こ

れ、6年度だから、確定ですね。ぜひ、先ほどの意見は、より深刻さを増してるんだなと思いました。なので、県・大学とともに、広報費の増加、フィールドワーク研究の、ああ、広報費の増加ですね、ぜひここは、取組の拡充をいただきたいと付け加えておきます。これ意見です。

◆吉野恭介分科会長 伊藤副委員長。

◆伊藤幾子副分科会長 この環境大学の運営費交付金で、新年度から、多子世帯、3人以上の子供がいるところが無償化になるっていうことで、これ自体は、本当にいいことだと思ってるんですけど、反面、この対象が、国公立に限らず、もう私の大学も対象となることなので、大体、国公立って授業料が安いからっていうのでね、選択されたりする場合が多かったわけなので、そういう点から考えると、私立大のほうに、こう行っちゃう可能性が、より大きくなるなあ。さっき雲坂委員が言われたように、だから、余計に選んでもらわないといけなくなってくるってというのが、よりこう本当に求められてくるなあ。行かせる側にしたら、行く側にしたら、本当に授業料が安くなってね、よかったっていうところはある一方で、大学とすればね、本当に、その無償にする分は、国のほうから来るかもしれないけれども、やっぱりこう志願者がこれだけ増えて、減っているっていうことを踏まえると、この無償化の影響も出てくるんじゃないのかなと思いますので、きっと大学は考えてると思います、危機感持って。だから、さっき雲坂委員が言われたことも含めて、その大学をどう本当にこう選んでもらうかっていうところに、より一層力を入れていかないと、厳しい状況になるのかなっていうふうには思ってますので、意見として言っておきます。以上です。

◆吉野恭介分科会長 坂根委員。

◆坂根政代分科員 関連です。こんなに志願者が落ちてるってびっくりして、実際これで、経営が成り立つんだろうかというちょっと心配をしました。そこでですが、私も意見ですけど、でも出口がね、出口戦略が安定してないと、なかなか志願者は増えないと思うんです。そこをどう開拓するのか。これ多分、毎回言われてるかもしれませんが、やはり、そこだと思うんですね。

もう一つは、鳥取市は、環境基本計画もつくり、脱炭素の工程もつくってきました。とすると、そことどう、この環境大学を、きちっと出口戦略でつなげていくのか。また、例えば、環境大学に、その脱炭素であるとか、そういったところを含めてですね、やっぱり鳥取発の脱炭素社会に向けた研究成果を発表してもらおうとか、やはりそういったことを、鳥取でやるからこそできるというね、こういったものをつくっていかないと、なかなか志願者は増えないのではないかと思いますので、ぜひ、そういう意見が出たということで、その内容の吟味というか、カリキュラムの吟味というか、そういったものもお願いしたいと思います。以上です。

◆吉野恭介分科会長 御意見ということで。そのほか質疑ありますか。坂根委員。

◆坂根政代分科員 事業別概要 69 ページの下段です。文化施設のあり方に関する検討事業費ということで15万7,000円、これは、有識者会議の、多分謝金等になると思うんですが、その有識者会議を経て、基本構想を、令和7年の秋ぐらいには策定すると、こういうふうに伺いました。その質問は、ここからなんですが、そのときに、多分パブリックコメントをかけられてもね、なかなかこの状況が、市民が把握しにくいというところがあると思うんですね。実際、市民が

余計気になってるというのは、予算がどれぐらい、これからかかるんだろうというようなことも出てくると思うんです。そういう意味でいうと、この基本構想を立てたときに、そういう予算面も含めて出てくるのかどうなのか、その辺を教えてください。

◆吉野恭介分科会長 中村課長。

○中村和範文化交流課長 文化交流課、中村です。秋頃に策定されますのは、基本構想でございまして、その後、また基本計画をつくりまして、実施設計という形で、工事に動いていくという形になろうと思っています。でして、基本構想では、求められる機能とか規模ですとか、そういったものを固めますので、金額のほうまでは概算のほうで、最終的には出てこなくなつて、それ以降の、先ほど言った基本計画、実施設計とかを経て、しっかりとしたものが出てくることになってますが、概算のほうとしては、事務局のほうとは、ちょっとはじいていることはありますけれども、ちょっと構想のほうには出す予定は、現時点ではございません。

◆吉野恭介分科会長 坂根委員。

◆坂根政代分科員 次の質問です。スケジュール感のことなんですが、駅周辺再生基本計画は、令和7年度にはつくられるというふうに聞きました。じゃあ、その基本構想ができて、基本計画をつくるということですが、そこのスケジュールが合うのかどうなのか、合わなければならぬと思うんですが、どういうスケジュール感で調整をされるのか教えてください。

◆吉野恭介分科会長 中村課長。

○中村和範文化交流課長 文化交流課、中村です。駅周辺の計画は、7年度に策定されまして、文化施設の基本計画のほうは、それ以降、8年、計画決まった以降に策定する予定となっております。以上です。

◆吉野恭介分科会長 坂根委員。

◆坂根政代分科員 駅周辺再生基本計画と、ずれがあるということでしょうか。

◆吉野恭介分科会長 中村課長。

○中村和範文化交流課長 文化交流課、中村です。すみません、駅周辺のほうで、7年度に、どういったものかというところで計画をなされまして、それ以降、文化施設のほうが、駅のほうにどういったものが入るかというところが計画されますので、駅周辺の計画で、それを踏まえて、8年度に計画をしていくというところで、文化施設がどういった形なのかというの、駅周辺の計画を踏まえた上で立てていくという関係性になると思います。

◆吉野恭介分科会長 坂根委員。

◆坂根政代分科員 ちょっと具体的な中身を見てみないと、ずれがあつていいのかどうなのかとか含めて、ちょっと判断しかねますので、一度、そういうちょっとスケジュールのね、やはりこの、こういう形で進めたいとか、または、駅周辺のその基本計画の中にも、文化的な施設を造るっていうことは出てるわけですので、その辺とのやっぱりちょっと関係性がしっかり見えるような、ちょっとスケジュール感のものを示していただきたいと思います。要望です。

◆吉野恭介分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 今の話の中でね、駅周辺の再整備の計画と、それから、この在り方に関するこの構想が出てくるんだけど、要するに、いわゆる上位計画はどちらになりますか。

◆吉野恭介分科会長 中村課長。

○中村和範文化交流課長 文化交流課、中村です。計画の上で上位・下位というのは、基本的にはないと思ってるんですけども、そのスピードですね、早めに整備されるというのが、駅周辺のほうが早くなっていますので、それを踏まえて、駅に入るかどうかというところを踏まえて、文化施設のほうは検討していく形になろうかと思います。

◆吉野恭介分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 上位・下位はないということなんだけれども、今の話からすれば、駅周辺に文化施設、これが、どういったもん持ってくるかは別として、そういったものが計画の上に成り立てばですね、おのずと、この文化施設の在り方に関するっていうのは、もうそこで、要するに限られるような中で、だから、このあり方検討委員会っていうのは、どこにではなくして、内容の話になるわけだと思います。だから、駅の周辺であるなら、駅の周辺に合ったキャパ、もちろんあるわけだから、そうなってくると、やはり上位計画ではないとはいってもですね、最初には、駅周辺のこの計画構想が決まって、ある程度それこそ決まってしまうと、そこに入るその文化施設については、キャパであったり、あるいは、どういうの、どういったものがっていうのも、これも、ある程度固まってしまうような感じがするんですね。だから、さっきスケジュール感という話があったんだけど、このことをしっかりと、市民なり我々に提示してもらわないと、議論がしにくいということなんです、議論がね。

だから、所管課はもちろん違うというふうに思うんだけど、その辺での、やっぱり各所管課のやり取りももちろんあるんだけど、スケジュール感からすると、そういった、要するに計画案の中で、具体的に、そういう、我々によく分かるような形でないと、何かそれこそ、ふわっとした中で議論してるような格好になるんでね、つかみどころがない。だから、議論のしようがないっていうか、質問のしようがないような状況になってるんで、その辺りは、やっぱりしっかりと、さっき言ったスケジュール感の中で示していただきたいというふうに思います。

もう一点、有識者会議、これは、今までのその旧庁舎の跡の跡地活用等々についても、市民のアンケートは、もちろん何回もやったんだけど、最終的に、これ決まったのは、市民アンケートではなくして、有識者会議からの意見が、かなりのウエートを占めたわけなんです。だから、それは、やっぱり有識者の方だから、それはそれとしてだけでも、どうもその議会の考え方は別としてですね、市民の考えと乖離してる場所もあるのかなっていう気はせんでもないし、その辺はしっかりと注視していただいて、その有識者会議の中でっていうのが、多分、たたき案を市が提示をして、それに有識者会議が、それこそ話をするような状況だと思うんだけど、そうじゃないですか。

◆吉野恭介分科会長 中村課長。

○中村和範文化交流課長 有識者会議のほうでは、市が提示する形にはなるんですけども、それまでに、いろいろなニーズですとか、御意見とか、ワークショップですとか、そういったものを踏まえて、有識者会議のほうの意見も踏まえた案ということで、市のほうが考えて提示したっていうわけじゃなくて、まとめた意見として、提示はさせてもらってます。

◆吉野恭介分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 旧本庁舎の跡地については、最終的に、あそこのその防災広場、防災の機能を有した広場っていうのは、有識者会議の委員さんの声っていうのが、かなり大きな力だったというふうに、私は思ってるんです、まあそうではないというかしらんけれども。だから、そんなこともありますんで、それは、専門家ですから、それはそれとしていいんだけど、やっぱり市民の声もしっかり聴いてもらうような状況の中で、後でパブリックコメントで、どうのこうのではなくして、ある面、我々の声、意見もそうなんだけど、そういった声も聴いてく中で進めてもらうっていうことと、さっき、元に戻りますけども、やっぱりそのスケジュール案、その辺りについては、しっかり出してやってくださいということです。以上です。

◆吉野恭介分科会長 要望ということで。そのほか質疑ありますか。坂根委員。

◆坂根政代分科員 72 ページの上段です。ここの予算自身は、実際、指定管理に関わっての予算が出てると思うんですが、事業の経過及び背景のところには、老朽化が進行していることから、適切な維持管理と併せて、今後の方向性を検討する必要があると、こう書かれていて、実際、その市民会館の老朽化に対してのものが、一度提案されたと思うんです。その後は、その旨についてはどうなってるのか、また、それは、いつ予算化されるものなのか、そこを教えてください。

◆吉野恭介分科会長 中村課長。

○中村和範文化交流課長 文化交流課、中村です。市民会館の考え方なんですけども、委員会のほうでも、何回か故障があってですね、やれ直すべきというところで、お話しさせていただいて、今年度の予算で、調査業務ということで予算を組んで、どういった工法なり、金額かかるかっていうところ、出したところでございます。それを受けて、12月の委員会で説明させていただきましたということがありました。

今後の考え方なんですけども、そのときの委員会でもあったんですけども、先ほどありました、駅、新たな文化施設の基本構想ですね、そういったものが固まってない段階で、施設の改修とかをすることは、ちょっといかがなものかというような御意見もございました。なので、現時点で、有識者会議のほうで検討されてます基本構想のほうが、予定でいうと、5月に、有識者会議の5回目がありまして、6月以降パブリックコメントをしまして、9月議会で、その報告等がなされ、する予定となっておりますが、そのときに、市民会館の既存施設の在り方とかも、基本構想に、部分が載ってる部分がありますので、それを受けて、時期的には、その構想が出た後に、市民会館の設計のほうに予算を上げていくのかなと思ってます。現時点で、設備の改修の内容のすとか、バリアフリーの内容のすとかを精査しておりますので、秋頃には、補正予算の設計のほうで、しかるべき時期、秋頃には上げられていけるものかなと、思っているところでございます。

◆吉野恭介分科会長 坂根委員。

◆坂根政代分科員 秋頃になるということですね。じゃあ、その秋頃までは、確認ですけど、空調設備も直さないということですか。

◆吉野恭介分科会長 中村課長。

○中村和範文化交流課長 文化交流課、中村です。空調もですね、昨年空調開始前、5月に故障いたしまして、今は直っている状況でございます。ですので、また来年のですね、壊れたのが冷房のほうでして、暖房のほうはいいので、また冷房が、またその5月の空調の時期に動くかどうかということもございますので、現時点では動くということで、直さずに向かって、またそれが、動かないということになれば、またそのときに対応させていただくという形になるかと思えます。

◆吉野恭介分科会長 坂根委員。

◆坂根政代分科員 状況は分かりました。でも、本来は、早めに直さないけんという状況があるように思いますので、その状況を見ながら、でも、直すべきときは直すという決断をしていたくよう、お願いしときたいと思います。以上です。

◆吉野恭介分科会長 そのほか質疑ありますか。浅野委員。

◆浅野博文分科員 事業別概要 70 ページの下段になります。文化芸術のまちづくり推進事業費、この事業ですけども、事業の内容が5つ書いてありまして、その下に、事業の実績が、令和6年度の見込みが書いてあります。特に、(3) 6件、(4) 7件、(5) が1件ってことで、とても少ないような、に感じるんですけども、この、いわゆる民間ギャラリーの活用支援、それから地元芸術家活用支援事業、それから若手芸術家育成拠点整備事業、この3つ、どういうふうな使われ方をしてるってことを、教えてもらえませんか。

◆吉野恭介分科会長 中村課長。

○中村和範文化交流課長 文化交流課、中村です。まず、民間ギャラリーの活用支援という部分ですけども、こちらに書いてありますけども、芸術家さんが、民間ギャラリーを使って作品を展示するというので、こちらのほうは、予算としましては、取りあえず10万円の10件ということで予算を上げているんですけども、実績のほうは1桁だということで、活動をするタイミングとかにもよるでしょうし、そういった部分で、件数のほうが上がってないかと思っておりますけども、やはり、その文化芸術家のほうが、作品をね、展示する、見ていただくというのは大事だと思っていますので、こちらのほうは、引き続き周知していきながら、回数、件数も増やしていきたいなと思っていますところでございますし、地元芸術家の支援事業というのは、こちらのほうも、地元の芸術家を、団体とかに実施しているもので、こちらのほう、予算としては20万円の5件という形で組まさせていただいております。そちらの民間ギャラリーの活用支援と同じように、地元の芸術家がですね、市民のほうに見ていただいて、芸術に触れていただくという機会が同じですので、大事ですので、そういった部分では、同じようにPRをしていながら、市民に、芸術に触れていただくというようなところで、回数を増やしていけたらなと思っておりますし、最後の若手芸術家の拠点整備事業というのは、件数が、今1件という、支援の拠点がまだ1つと、現在1つということをつくっておりますので、令和5年度から動いている事業で、6年度、今年とかも動いてるんですけども、支援としては1か所ということで、拠点施設が1か所なので、回数も1か所ということで、こちらのほうは、昨年度に引き続き、改修が行った拠点の施設のですね、改修の予算と、あと、その拠点を使って、イベント開催を行ったりするような予算を組んでいるところでございます。どちらにしましても、こう

いった文化芸術のまちづくりということで、芸術に触れる機会ということで推進していきたいと思っております。以上です。

◆吉野恭介分科会長 浅野委員。

◆浅野博文分科員 具体的にお聞きしましたが、この特に（3）の、やっぱり10万円を10件で、来年度は想定してることですけども、この辺の周知の仕方っていうのは、どういうふうにされてるんでしょうか。

◆吉野恭介分科会長 中村課長。

○中村和範文化交流課長 文化交流課、中村です。この事業も、例年ずっとやっている事業で、交付金を使ってやっている事業でして、事業別概要上は、前年度予算がないんですけども、コロナ交付金を使っての事業で取り組んでいる事業でございます。ですので、ある程度の芸術家さんのほうには、周知が行っているって考えておりますが、また、新たな芸術家さんのほうには、今後こういったものがあるということで、折を見て周知していきたいと思っております。

◆吉野恭介分科会長 浅野委員。

◆浅野博文分科員 大事な取組だと思いますので、引き続き、この使いやすいギャラリーを、使いやすいような、そういった取組を続けていただけたらと思いますので、よろしく願います。要望です。

◆吉野恭介分科会長 そのほか質疑ありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆吉野恭介分科会長 質疑なしと認めます。それでは、これで質疑を終結し、執行部におかれましては、これで御退席ください。お疲れさまでした。

分科会長報告の取りまとめ

◆吉野恭介分科会長 それでは、引き続きまして、分科会長報告の取りまとめを行います。企画推進部所管の部分で、皆様から、質疑及び意見、執行部の答弁の中で、分科会長報告に盛り込むべき事項として御意見がありましたら、順次御発言をお願いします。坂根委員。

◆坂根政代分科員 私は、事業別概要63の上段の、麒麟のまち圏域学生・若手社会人交流事業費について取り上げていただきたいというふうに思いました。1つは、その実行ということなんですが、その実行に関わって、もう少し目的を精査すること、そして、もう一つは、やはり若手プロジェクトチームの関与をしていくことというようなことを、ぜひ、ちょっとその提言に入れていただけたらありがたいなと思いました。以上です。

◆吉野恭介分科会長 そのほかありますか。たくさん意見も出ましたけど。星見委員。

◆星見健蔵分科員 私は、重要な点っていうことは、環境大学も重要な点ではあると思います。ただ、2年から、その志願者数を見たら1,300、1,200台がずっと来て、たまたま去年が800台にと、急減したということではありますが、今年、7年度はどうなのか。それから、そういったことも、もう少し様子を見てやるということ。ただ、いろんな問題点がある中で、やはり、その健全経営ですね、これにつながる、それから、学生の魅力発信、こういったところの広報、こういったことにも力を入れるというような取組も重要だと思うわけですが、坂根委員が言わ

れたように、やっぱりこの麒麟のまち連携の、ますます重要になってくる圏域との連携ですね、こういったことを踏まえて、若者の方々が、若い方々が考えておられることを、提言から実践までですね、そして、いい結果につながるようなものに仕上げていく、こういったことが重要だと思いますので、そういったところを上げていただければなというふうに思います。

◆吉野恭介分科会長 上杉委員。

◆上杉栄一分科員 私も、坂根委員の提案した項目がいいというふうに思います。強調したいのは、やはり若手職員の提案で、この事業が実現した、実現はしたんだけど、まだ、それがもう少し掘り下げた形でのでない駄目だということと、それから、さっきも意見もあった、若手職員がそれであるならば、その中に参画するような形の中でやっていかないと、何のための若手職員の提案なのかというようなことが、やっぱり、もうぼけてしまうんでね、そういったこと、やっぱり指摘しておきたいなあっていうふうに思います。以上です。

◆吉野恭介分科会長 伊藤副委員長。

◆伊藤幾子副分科会長 私も、この麒麟のまち圏域学生・若手社会人交流事業費でいいと思います。若手職員のその提案、政策提案は久々だったと思うんですよ。プロジェクトチームでやったってことの1つがこの事業なので、初年度なので、これからやるという辺りなので、やっぱりこれを取り上げるのがいいと思いますし、坂根委員や上杉委員が言われた観点で、私もいいと思いますので、これでいいと思います。

◆吉野恭介分科会長 皆さんからの意見が出ました。試験的な事業とはいえ、みんなで応援していくんだという気持ちで、いろいろ足元の交通費だとかね、そういったことも出ました。若手職員の人材育成みたいなことにつなげてはどうかというような意見も出ました。執行部のほうからは、定住につなげたいんだっていうようなこともありましたけど、もっと掘り下げていくべきではないかというような御意見もいただきました。連携の考えもいただきました。そういったことを盛り込んだまとめにしたいと思いますけど、よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆吉野恭介分科会長 ではまた委員長、副委員長、事務局でまとめまして、提案させていただきます。

皆様から、その他意見ありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆吉野恭介分科会長 なければ、文章化は、正副委員長、事務局に一任させてもらうということによろしいですね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆吉野恭介分科会長 じゃあ、そのように取りまとめさせていただきます。

それでは、これで、予算審査特別委員会総務企画分科会を一旦終了します。御苦労さまでした。

午前11時26分 休憩

午前11時27分 再開

【監査委員】・【選挙管理委員会】・【出納室】・【市議会】

- ◆吉野恭介分科会長 それでは、ただいまから、予算審査特別委員会総務企画分科会を再開いたします。

議案第11号令和7年度鳥取市一般会計予算のうち所管に属する部分（質疑）

- ◆吉野恭介分科会長 議案第11号令和7年度鳥取市一般会計予算のうち、本委員会の所管に属する部分の質疑を行います。

まず、監査委員の所管に属する部分について、質疑のある方は挙手をお願いします。よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

- ◆吉野恭介分科会長 なしと認めます。

続きまして、選挙管理委員会の所管に属する部分について、質疑のある方は挙手をお願いします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

- ◆吉野恭介分科会長 よろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

- ◆吉野恭介分科会長 次に、出納室の所管に属する部分について、質疑のある方は挙手をお願いします。ありませんね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

- ◆吉野恭介分科会長 では、最後に、市議会の所管に属する部分について、質疑のある方は挙手をお願いします。浅野委員。

- ◆浅野博文分科員 事業別概要269ページの上段の議会報発刊費ですけども、まず、この新年度は、予算が5年度、6年度と比べて増えているんですけども、どういった理由でしょうか。

- ◆吉野恭介分科会長 一村局次長。

- 一村泰志市議会事務局次長 これは、見積単価の影響が大きいものでして、令和7年度におきましては、1.5円で計算しております。これは、見積徴収をした3者のうちの最低単価という形で算定しております。ページ数、あと部数については、昨年度と同様でございます。ちなみに、6年度は、1.1円の単価でございましたので、その分の経費の算定が上がっておるという形でございます。以上です。

- ◆吉野恭介分科会長 浅野委員。

- ◆浅野博文分科員 分かりました。それとですね、この事業の内容で、年4回、六千、6万3,930部ってことで発行されとるんですけども、鳥取市の世帯が、大体8万2,000世帯ぐらいですけども、この差があるんですけども、これ、町内会のほう加入してないとか、戸別に配布してるのか、公共施設に置いてるとか、いろいろあると思うんですけど、この辺の内訳と、あとは、この部数がこの数でいいのかっていう考えを教えてください。

- ◆吉野恭介分科会長 一村局次長。

○一村泰志市議会事務局次長 議会だよりの発行部数ですが、これは、広報室よりお聞きした市報の発行部数に、事務局用の200を足して製作しておりますので、R7年度の発行部数も、これに同様な形で算定して、一応この予算計上しております。必要な部分については、これで回っておりますので、十分、必要十分だというふうに考えております。以上です。

◆吉野恭介分科会長 浅野委員。

◆浅野博文分科員 分かりました。なるべく市民の方に読んでいただきたいと思っておりますので、この辺も、市報との兼ね合いもあると思えますけども、これ、議会広報広聴委員会のほうの管轄になるんかも分かりませんが、所管になるかも分かりませんが、この辺が、なるべく多くのね、市民の方に届くように、また検討していただけるよう要望してと思えます。以上です。

◆吉野恭介分科会長 要望ということで。そのほか質疑ありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆吉野恭介分科会長 なければ、これで、質疑を終結します。

執行部におかれましては、これで御退席ください。お疲れさまでした。

分科会長報告の取りまとめ

◆吉野恭介分科会長 ただいま、総務部・危機管理部、企画推進部、市民生活部より、それぞれ項目が出ておりますが、4項目めとして、各種委員会、今の御意見を入れるかどうか協議をしたいと思えます。皆さん、御意見があれば、お願いします。

◆上杉栄一分科員 議会だよりにしか出てない。それを出すかえ。

◆吉野恭介分科会長 いや、よろしいですね。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆米村京子分科員 別に無理して入れることじゃない。

◆吉野恭介分科会長 御意見をいただきました。では、そのようにさせていただきます。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆吉野恭介分科会長 次に、委員長報告に盛り込む事項の協議ということでもあります。3つ出ました。どれがよろしいでしょうか。事務局、ちょっと読み上げてもらえますか。事業名だけで結構です。

○谷島孝子市議会事務局議事係長 総務部は、包括的施設管理事業費、市民生活部が、中山間地域・買物支援事業費でございます。先ほど、企画のほうは、麒麟のまち圏域学生・若手社会人交流事業費となりましたので、この3つの中から1つ、分科会長報告、どれかを選んでいただければと思えます。

◆上杉栄一分科員 去年の報告が、ここにあるんだけど、その中で、委員長報告は何を上げとった。

○谷島孝子市議会事務局議事係長 包括管理委託事業費でした。

◆上杉栄一分科員 そうすると、仮にそれ、包括をやると2年連続、それが上がるっちゃう話になるな。

- ◆吉野恭介分科会長 包括管理委託事業費以外で。
- ◆星見健蔵分科員 まあ買物支援か。
- ◆上杉栄一分科員 買物支援かな。
- ◆吉野恭介分科会長 買物支援という意見が出ましたけど、どうですか、皆さん。よろしいですか、中山間地域・買物支援事業費。
- ◆星見健蔵分科員 やっぱり市民の暮らしが重要だということで。
- ◆吉野恭介分科会長 では、そのようにさせていただきました。
それでは、予算審査特別委員会総務企画分科会を終了し、総務企画委員会を開催します。

総務企画委員会に切替え 午前11時34分 閉会

令和7年2月定例会

総務企画委員会・予算審査特別委員会総務企画分科会

日時：令和7年3月11日（火）午前10：00～
場所：本庁舎7階第1委員会室

企画推進部

..... 《 総務企画委員会 》

◎議案【先議分以外：質疑・討論・採決】

議案第44号 鳥取市まちなか交流広場の設置及び管理に関する条例の制定について

議案第63号 学校法人又は私立学校法第64条第4項の法人の助成に関する条例の廃止について

◎議案【追加分：説明・質疑・討論・採決】

議案第69号 令和6年度鳥取市一般会計補正予算（第10号）【所管に属する部分】

..... 《 予算審査特別委員会 総務企画分科会 》

◎議案【予算審査分：質疑】

議案第11号 令和7年度鳥取市一般会計予算【所管に属する部分】

◎分科会長報告の取りまとめ

監査委員

・ 選挙管理委員会

・ 出納室

・ 市議会

..... 《 予算審査特別委員会 総務企画分科会 》

◎議案【予算審査分：質疑】

議案第11号 令和7年度鳥取市一般会計予算【所管に属する部分】

◎分科会長報告の取りまとめ

その他

..... 《 総務企画委員会 》

◎閉会中の継続調査について

別紙「閉会中継続調査申出書（案）」のとおり